

3つの芸術活動、秀明自然農法

毛利 尚徳

地球上の様々な問題(災害、経済危機、食糧危機、戦争、紛争、伝染病、犯罪など)の解決には、神の存在、霊界の存在、靈魂の存在を知り、その法則にしたがって生きる必要があります。私たち神慈秀明会は、その霊的な文化の飛躍を促し、物質文化と共に進歩していくことが必要であると考えています。真の再生とは、霊的文化の向上が不可欠です。そのような世界を目指して、三つの芸術活動を行っています。その3つは(1)祈り、浄霊(生命の芸術)、(2)自然農法(農業の芸術)、(3)美による感化(美による芸術)です。ビデオ上映(約16分)を含み、特に秀明自然農法について、その理念と効果、活動について紹介します。世界中の信仰者と共に、同じ目的の下に、手を取り合って活動していきたいと思っています。

In order to solve various problems that we see today (disasters, economic and food crises, wars and conflicts, epidemics, crimes, etc.), there is a need to know the existence of God, the spiritual worlds, and the soul as well as to live in accordance with the spiritual laws. We members of Shinji Shumeikai believe in the necessity to promote a spiritual civilization which in harmony with a material civilization. Thus, a true renewal must entail uplifting of spiritual dimensions. In order to achieve this goal, we are engaged in three forms of arts: (1) Prayer and Spiritual Purification (Art of Life), (2) Natural Agriculture (Art of Agriculture) and (3) Sensitization through Beauty (Art of Beauty). The presentation will include a 16-minute video with a special focus on Shumei's Natural Agriculture Method, introducing its basic philosophy, contents and effects. It is our prayer that we will be able to work hand in hand with believers of all faiths throughout the world.

こんにちは、私は神慈秀明会の毛利尚徳と申します。今日は、バハイの研究大会にお招き頂き、このような発表の機会をいただきまして誠に有難うございます。「破壊と再生」というテーマの下、私たち秀明の活動(3つの芸術活動、特に秀明自然農法)についてお話させていただきます。

この地球には、様々な問題が山積しております。直ぐ思いつくことだけでも、ここにあげましたように、貧困と飢餓、公害と環境破壊、戦争とテロ、病気、経済危機、などあると思います。私どもの教祖、岡田茂吉師はこれらの原因の根本は、「物質文化の発達一方で、精神文化が遅れている」と指摘しています。精神文化とは、つまり、目に見えない世界、霊界、心の世界、魂の存在、神の存在を認める文化とでもいいでしょうか。物質文化を置き去りにして、精神文化だけに偏ってもいけません。教祖は「物質文化と精神文化が歩調をそろえて進むことが必要である。そのためには精神文化を、物質文化に見合うだけに引き上げなければなら

ない」と仰っています。

その精神文化を引き上げるための主な活動としまして、秀明では 3 つの芸術活動に取り組んでいます。

まずは、浄霊(生命の芸術)です。人の幸せを祈る活動です。秀明の信者は浄霊を人さまにさせていただくことができますし、信者から受けることもできます。秀明の信者でない方は、受けることのみできます。

次は、自然農法(農業の芸術)です。簡単に言いますと、化学肥料や農薬を使用しない、自然堆肥のみで行う農業です。

3 つ目は、美による感化(美の芸術)です。生活に美を取り入れること、美の環境は犯罪や忌わしいことを減少させます。また滋賀県甲賀市にMIHO MUSEUMを開設し、一般の方に広く美術品を楽しんでいただいています。

その 3 つの芸術活動を紹介しているビデオがございますのでご覧頂きたいと思います。その後、秀明自然農法について詳しくお話していきたくと思っています。それではビデオをお願いします。

(DVD 上映)

ありがとうございました。それでは、秀明自然農法についてスライドを使いながらご説明させて頂きたいと思います。

秀明自然農法とは

岡田茂吉師(1882~1955)が提唱した自然栽培法で、自然堆肥以外の些かの不純物も混ぜることなく、土を清浄化し、土自体の力を発揮させる農法です。「自然がすべてを教えている」と岡田師が述べているように、この農法の理念は自然尊重、自然順応であり、清浄な土、自家採種された種子、生産者の作物への愛情と大地への感謝を大きな特徴としています。

自然農法でできた作物は、非情に「おいしい」という特徴を持っています。先ほどお話ししました。MIHO MUSEUMのレストランでお出しする料理は、すべて、無肥料、無農薬で作った食材からできております。とてもおいしいです。添加物や、防腐剤などの化学物質を一切使用しておりませんので、安全安心の食文化のモデルと言えるでしょう。

なぜ無農薬なのか？

農薬、つまり、草を枯らしたり、虫を殺したりという行為は自然界の生き物を殺してしまうわけですから、地球環境にいいはずがありません。畑から漏れ出した農薬が、一般社会に人体に害を及ぼしている例は皆さんご存知でしょう。農薬の使用は、実際に作ろうとしている作物も弱らせてしまい、病虫害を拡大させているのです。農薬メーカーは遺伝子組み換え作物なるものを開発し、対処しているように見えますが、遺伝子組み換え種子と農薬のセット販売による利益目的が大きな社会問題となっていますし、そもそも自然順応からかけ離れていくばかりです。

農薬を使う農業が世界の大半を占めていますので、現代人は毎日の食事から、結果的に大量の農薬を接種していることとなります。生活習慣病や癌、アレルギーが増加し続けるのも当然といえます。

なぜ無肥料なのか？

作物が肥料を吸収すると有毒化し、それが害虫の食料になります。その毒を肥毒といいます。無肥料なら害虫は湧きません。また肥料を与えると、作物は早く成長し、大きくなりますが、作物自体の力が弱りますので、害虫にも負けやすくなり、風水害の被害も受けやすくなります。それは根が健康でないからです。その作物は肥料を与えないと成長しなくなり、中毒状態となります。農家も肥料を与えないと作物はできないと思い込み、肥料を与え続けます。つまり肥料迷信に陥っているのです。肥料中毒の作物はおいしくないし、栄養もありません。

自然は完全です。本来は人間が作り出した化学肥料は必要ありません。自然の力だけで、作物は必要以上余るほど生産されるのです。

そのためには、自然順応、自然尊重の考え方、自然から学ぶという姿勢、ライフスタイルがとても重要になってきます。畑の周りには森があり、枯れ草や落ち葉が豊富にでき、それを肥料にせよと教えているのです。季節に応じた作物を食べるのが自然です。冬にきゅうりやトマトを食べたり、夏に白菜、大根、蕪(かぶ)を食べたりは本来はできないのです。ところがスーパーには一年中人間が食べたいと欲する作物が並んでいます。どうやって作っているのでしょうか？自然順応ではないですね。

ここで、一人の学生の体験を紹介しましょう。自然から学び、人間的にも成長する姿があります。

私は、13歳の時、親の強い勧めもあり、秀明の学生プログラム自然農法勉強会に参加しておりました。始める前は、元々、虫や昆虫がとても苦手で、こわいくらいでしたから“1年だけ我慢したら絶対やめてやろう”と思っていました。しかしながら、実際に参加して、このプログラムから多くのことを学び、今ではそのことにとっても感謝しております。

私の天敵、虫との話をしたいと思います。圃場には虫がいっぱいいます。わたしはそれが本当に嫌で嫌でたまりませんでした。土や作物に触れる際に、素手でなんて考えられないくらいでした。でも、私の中で大きな変化が起こります。忘れもしない真夏の作業中、わたしが一番嫌だったことは虫の姿よりも虫の飛ぶ音でした。あの音を聞くだけで、ゾーっとして、鳥肌がたってしまいます。夏場は特に多く、そこら中にたくさん飛んでいて、「ぶん、ぶん」という音がずさまじく、わたしは半泣き状態でした。途中、作業をやめてすぐ畑から逃げ出したいくらい嫌でした。しかし、そんなことを思っても作業が無くなるわけではないし、だからといって虫がいなくなってくれる訳でもなく(むしろ増えているようなイメージがあり)、ノイローゼになりそうでした。あの時の気持ちは絶対に忘れられません、もうどうしようもなくなった瞬間、わたしは、思い切って、虫のことを考えるのをやめ、作業に意識を集中しました。すると、今まで、まるでわたしに寄ってきているかのように感じられた虫たちが、気にならない程度に減っていることにふと気付きました。私は、“私が嫌だ嫌だと思っていたから虫たちは自分に寄ってきていたのではないか”と思いました。

虫がいるから、花が受粉して、実をつけて、やがて種になる、その自然のサイクル

はどれが欠けても成り立ちえないものなのに、わたしは嫌だと思うだけで、虫に感謝すらしていなかったと、秀明自然農法の心のあり方に自然と気付くことができました。また、その考え方が日常生活にもあてはまることにも気付くことが出来ました。特に私は、その頃は人見知りの性格でしたので“よく知らないうちから嫌だと自分から遠ざけたり、心を閉ざすことをやめなくてはいけない”と思えるようになりました。自然農法においても大切な心のあり方を実際に感じる事ができ、また一人の人間として、幅が広がったように思えます。

教祖の教えでは「火素、水素、土素がすべての力の根源であり、万物が生成される」と説いています。つまり、太陽の光と熱、水、土がバランスよく融合することによって、自然界のすべてが成り立っているということです。秀明自然農法の作物も、太陽、雨、土(火素、水素、土素)で作物ができるのです。それが真の肥料です。自然力と私たちは言っています。

秀明自然農法は化学肥料を必要としません。土は神が人畜を養うために作物を生産すべく作られたもので、言わば肥料の塊なのです。土自体の力を強化するよう、自然堆肥以外の不純物は一切入れず、できるだけ清浄にすることです。毎年毎年この栽培法を続けていきますと、肥毒が抜けて神が与えてくださった土本来の力を発揮するようになります。前述の肥毒があるうちは、作物の生育の邪魔をしますので、生育が思わしくない時期が続きます。

そのため自家採取が大変重要になってきます。市販の種は、言うまでもなく、消毒などの化学薬品づけ。遺伝子組み換えの種も最近国が認めているようです。

秀明自然農法の自家採取とは自然栽培で育てた作物から種を採り、その種を撒き、次の世代を育て、また種を採ります。それを繰り返すことによって、年々種からも肥毒が抜けていき、健康な種になって行きます。種を買うことも必要ありませんし、化学肥料も農薬も買う必要がありません。経済問題も改善します。

2004年からは秀明が支援しているザンビアのムババラ村の農民たちは、ヨーロッパの企業から農薬と種を買って農業を営んでいました。ところが、その種ではうまく育たず、利益どころか、自分たちの食料や、来年撒くための種を買う資金もありませんでした。もうやっていけないという時に、秀明が支援することになりました。秀明の指導者が始めて現地の状態を知り、「どうして種を採らないんだ？」と尋ねた時に彼らは「種を採るとはどういうことだ？」、「種は採るものなんだよ」との言葉が交わされたと聞いています。長い間の植民地支配の影響もあり、先祖代々の農業を忘れ「種は買うものだ」と思い込んでいたのです。秀明の自然農法によって彼らは成功し、隣の村も秀明自然農法に取り組み始め、国の大臣が視察に来るまでになりました。

人として注ぐものは愛情です。土を愛して、作物を愛して、その力を信じてあげることです。教祖は「作物にも、土にも、無機物にさえも心がある」と説いています。耕作者の心が作物の成長に大きく影響を与えます。

ここで、再び学生の体験をご紹介します。

人参とカブの話をしたと思います。私は人参独特の風味と甘さが苦手でした。そんな頃、人参とカブの種まきをしなければならなくなりました。私は、人参だけはどうしても苦手で、でも逆にカブは大好きでしたので種の時点で不思議とめっちゃかわいく、自然と“大きいカブになるんだよー、がんばってね”とっていました。正

直人参を植えるスペースすべてカブにしたいなと思っていました。けれども貴重な自然農法の自家採取の種でお勉強させて頂いて、そんなわがまま言えませんので、そんなことを想いながら両方ともに植えました。また、大好きなカブのことが不思議と頭から離れず、ほぼ毎日“元気かなあ”と気にかけていました。

その結果、勉強会生メンバーの中でわたしの人参だけみごとに全く芽が出ず、全滅でした。それとは正反対に、カブはとっても元気で立派に育っていました。その頃の私には、この出来事がとても印象的で、“口に出さなくても作物に気持ちは伝わるんだ”と思い、人参にとっても申し訳なく、本当に勉強になりました。作物にかける想い、この場合では愛情を持って接することで、土の持つ自然力を発揮させ、農作物はその自然力を吸収する性能を発揮するんだと思いました。また作物だけでなく、人や物、事柄でも同じで、想いをかけること、気にかけてあげることってとても大切なことだと感じました。気付けば“祈る”ということが自然とできるようになっていました。

健康な土、健康な種、耕作者の心で、秀明自然農法の作物は作られています。土からも、種からも、年々肥毒が抜けることによって、作物の生産量が増えることになります。病虫害に強くなります。

これは、ある耕作者が、同じ日に、自家採取のサトイモと市販のサトイモを植えたそうです。自家採取のサトイモが足りなくなって、畝が余っていたのでしょがなく市販の種を買ってきて植えたそうです。もちろん、その後は無肥料で育てていますが、明らかに生育に差があります。右の列が自家採取で、左が市販です。その土地でできた種は、その土地の気候や、土の性質を記憶しており、その土地で育てるのに適しています。北海道でとれた種を、九州で植えても、うまく育ちません。乾燥地域では乾燥に強い状態に、風水害の多い地域ではそのように根っこが育つように種が記憶しているのです。

ザンビアでのトウモロコシの栽培の写真です。左が西洋から買った外来種、右がザンビア古来からある種です。あきらかに成長が違いました。古来からの種が、厳しい環境に適応しているので順調に育っていました。そしてこの自然農法でできた作物は「人を救う作物です」健康状態を改善する力があります。次にいくつか体験談を紹介しましょう。

千葉 Yさんの体験:6年ほど前、骨密度の検査を受け、同年代平均値比 80%以上が正常範囲のところ、62%しかありませんでした。医師の栄養指導で牛乳を飲むように言われ、嫌いな牛乳を飲むことにしました。しかし、約1年半後に測定しましたら骨密度は増えるどころか減っていました。

このまま数値がどんどん下がってしまうのかと、とても不安になりましたが、とにかく岡田茂吉師の理念にそった自然順応な生活をさせていただこうと思いました。夏には夏のお野菜。冬には冬のお野菜。乳製品は極力避け、添加物の表示を確認し、自分がどんなものを口にしているのか常に意識するようにしました。お野菜もできるだけ自然農法の畑に行かせていただき、やわらかい土の感触や、自然農法の作物の素晴らしさを感じながら収穫をさせていただくようになりました。

そのような生活の中で、骨密度もだんだん上がり、今年の四月には平均値の106%にまでなりました。また、私はとても寒がりです、半そでを着ることがほとんどなく、夏でも長袖に長袖を重ねていることが多かったのですが、気が付けば、少し涼しい日でも半袖を着て過ごせるようになっていました。

また、結婚当初は食に全く関心がなく、外泊をする時はインスタント食品を主人に置いて出かける状態でしたが、今では食卓に、自然農法のご飯やおむすびが並び、お味噌も手作りするまでに変わらせていただきました。主人も食に関心がなかったのですが「自然米と自然農法のお野菜が一番おいしい！」と言う私に「そうだね、こんなにおいしいお野菜、普通は食べられないよね。感謝だね」と言うようになりました。ひとりでも多くの方に自然農法の素晴らしさをお伝えできますように活動の輪を広げて行きたいと思います。

横浜 Kさん:私の娘は生まれつき重症の食物アレルギーがあり、体の半分はかきむしり傷と血だらけという状態になっておりました。薬は副作用があるので除去食をすることになり、主食はひえだけ、肉は、馬、うさぎ、かえるだけ、魚は天然のふぐ、鯛、穴子、メルルーサだけ、野菜も数種類だけ、調味料はひえで作った味噌、しょうゆ、天然の塩、テンサイ糖しか使えませんでした。そんな時、秀明自然農法のお米を薦めていただき、恐る恐る食べさせたところ、症状がまったく出なく、その日から除去食をやめました。神慈秀明会に入信し、先生の「毎日3食食べるので、毎日3回のご浄霊を少し長めに」とのご指導はわらをも掴む思いでしたので、ご指導どおりに続けました。3ヵ月後、娘の全身がツルツルになりました。その時の「おかあさん、ほっぺがツルツル」の娘の言葉が今でも忘れられません。あれから13年、娘は結婚し、心配していた遺伝はなく、生れてきた子供はツルツルの肌です。感謝あるのみです。

京都のKさん:私は人工透析をすることもなく健康にさせていただきました。平成6年、25年間飲み続けていた薬の副作用で腎臓が悪化し、尿が出ず、体重も78キログラムになり、人工透析をする2週間前に入信のお許しをいただきました。薬は入信して直ぐやめました。浄霊をして頂き、7ヶ月目で体重が7キロ減りました。少しずつ自然農法の物を食べさせていただき、25年間飲み続けていた薬のにおいのする尿を6年間出して頂きました。

平成10年ごろより、水田、畑に奉仕作業に行かせて頂き、お米、野菜を日々いただけるようになりました。すると身体に大変化が起きてきました。食べ続けて3年目に右足が3倍くらいの大きさに腫れて歩けなくなりましたが、頭痛、目痛、肩こりが取れていくと共に腫れが引き体重は60キロにまでなりました。その後、調味料もすべて自然農法にしました。たびたび、頭痛、目痛、肩こりと苦しみました。今ではそういうこともなく、体重は50キロにまで減って健康体にさせて頂きました。左足の外反母趾も消えました。感謝あるのみです。

以上です。大変有難い健康への影響がお分かりいただけたと思います。ここで、山口での私たちの自然農法の取り組みをスライドで紹介したいと思います。

お茶摘みです。摘んだお茶を、蒸した後、むしろの上で揉み、天日で乾燥させます。手作業で、おいしいお茶を作り上げます。

小麦畑の収穫をしています。小麦は三年後に醤油になります。

菜の花畑です。毎年4月はきれいな黄色に彩られます。菜の花が散って、種ができたら収穫し、その過程で、ごみを取り除く選別をします。菜種を絞って、菜種油のできあがりです。

田んぼの草取りの風景です。除草剤は使用しませんので、食べる人間がやらなければならない作業です。足腰がきたえられます。

麦畑です。鳥に食べられないように、収穫を待つばかりです。麦みそになります。

自然農法の特徴として、季節に応じて野菜の収穫期が来ます。大根が採れる季節は、大根ばかり毎日食べることが自然順応ということになりますが、人間は欲深く、「毎日大根ばかり飽きた。今日はあれが食べたい。これが食べたい」と季節にないものを求めてしまいます。食べきれないほどの大根は干して、加工品とします。

梅干しも大切な加工品です。

自家採取の種です。種取りを失敗した人、自然農法をやってみたいという人には自家採取の種を袋詰めにして販売したりします。

スイカもおいしいですよ。

メロンは3年目でやっと形と味がいいのができました。

夏野菜のピーマンです。その他、トマトや、きゅうり、カボチャ、オクラ、なす等も栽培しています。

今の季節はさつまいもがツルを伸ばしています。秋には焼き芋が食べたいですね。

今後の課題ですが、労働力の減少、高齢化、世界や国の農業政策、消費者意識の改善、その他とあげさせていただきましたが、自然農法の作物は、労力が要りますし、コストは高いです。スーパーなどの市販品とでは、より安いものを求め、質を求めない消費者が多い世の中では勝ち目がありませんので、農家は経営が成り立たないのが現状です。本当に価値の分かった人で、消費者グループを作り、農家を支援している状態です。もっともっと多くの消費者に、現在の安上がりな食生活の危険な現状を知っていただき、本当に価値のある食材に投資していただけるような社会にしていきたいと思います。それには法律の改正など、課題は山積みです。いずれにしる、消費者の意識の改善が、まず最優先であると思います。

ここで、バハイ共同体の方よりご紹介頂きましたバハオラ師のお言葉を拝読したいと思います。

第五原則。特別な配慮を、農業に払わねばならない。これは五番目に挙げられたが、疑いなく他の事柄に優先するものである。農業は他の国々では非常に発達しているが、ペルシャでは今までのところ、はなはだしくおざりにされている。陛下ペルシャ王――神が恵みにて彼を援助し給わんことを――が、この重大かつ重要な事柄に注意を向けることを望まれている。(バハオラ、「世界の書簡」)

もう一つ、ショーギ・エフェンディ師のお言葉を拝読させていただきます。

導きのために熱心に祈るだけでは十分ではありません。この祈りの後には、行動の方法について瞑想せねばならず、そして行動そのものが伴わねばなりません。行動が即座に結果をもたらさなくとも、あるいはそれが完全に正しくはなくとも、それほど問題ではありません。なぜなら、祈りは行動を通してのみかなえられるからであり、もし行動が間違っていたら、神がその間違いを通して正しい道を示すことができるからです。(ショーギ・エフェンデイの代理から個人の信者へあてられた手紙より、8/22/57: Lights of Guidance, p. 345)」

これらの問題解決には、多少の困難がありますし、それを覚悟した上での粘りがいると思います。社会を変えるには、誰かがやらねばなりません、決して容易ではないと思いますが。しかし、神様への信仰があれば、できると思います。信仰者の使命がここにあります。バハオラ師も農業の重要性を説かれました、ショーギ・エフェンデイ師も祈りを行動に表すことを説かれております。農業だけではなく、精神文化の向上に、多くの宗教者が手を取り合ってやって行きたいと思います。皆さんどうかよろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。